

2021年12月17日

報道関係各位

一般社団法人 日本電気計測器工業会 (JEMIMA)

## 電気計測器の中期見通し2021～2025年度版 発行のお知らせ

2021年度の電気計測器全体の売上見込みは前年度比+1.3%、  
2021～2025年度の年平均成長率は+0.9%とほぼ横ばいの見通し。

一般社団法人日本電気計測器工業会 (JEMIMA、会長 曾禰 寛純) は、当工業会の統計データをもとに2025年度までの電気計測器の需要見通し調査を行い、冊子「電気計測器の中期見通し2021～2025年度」を発行いたしました。

### 【概要】

電気計測器全体(国内売上+輸出)の2020年度は、移動体通信用測定器や、PA計測制御機器の石油精製・鉄鋼・食品分野では減少しましたが、新型コロナウイルスの影響は見込んだほどではなく、再生可能エネルギー設備の新設などSDGs達成に向けた積極的な投資や、巣ごもりによる家庭での電力消費増加に伴うプラント稼働関連需要もあり、全体としては5,536億円(前年度比-5.6%)の見込みに対して、実績は5,937億円(前年度比+1.6%)と前年度比で91億円のプラスでした。

2021年度は、新型コロナウイルスや米中関係の影響は残るものの、SDGs達成に向けた投資増加、新型コロナウイルスの影響からの回復傾向も見られ、製品群別では電気測定器、電力量計、環境計測器、放射線計測器が前年度比プラス、PA計測制御機器も前年度比ほぼ横ばいを見込んでおり、トータルでは6,016億円(前年度比+1.3%)の増加を見込みます。

2022年度以降は、新型コロナウイルスの影響から回復し、国内外で停滞していた設備投資や公共投資の加速が期待されます。具体的には、「6G」技術の研究・開発に対応する通信測定器需要、脱炭素化やSDGs達成に向けた設備投資、新型コロナウイルス対策としての化学・医療分野への設備投資の増加により、2021～2025年度の年平均成長率は+0.9%とほぼ横ばいと見通しました。

海外拠点の売上を含む「国内売上+輸出+海外拠点売上」の2020年度実績は、海外拠点売上の減少により、前年度比-1.5%の7,751億円となりました。2021年度は、新型コロナウイルスの影響は残るものの、停滞していた設備投資の増加により、前年度比+1.2%の7,847億円を見込みます。2022年度以降も堅調に推移し2025年度は、2020年度比+6.8%の8,279億円になるものと見通しました。

本日発表の「電気計測器の中期見通し2021～2025年度」は有料で頒布いたします。

発行刊行物：書籍名「電気計測器の中期見通し2021～2025年度」

発行日：2021年12月17日

頒布価格：一般：¥11,000- (税込・送料別)

JEMIMA会員：¥3,300- (税込・送料別)

「電気計測器の中期見通し2021～2025年度」発行・発表会の開催概要：

- 主催：一般社団法人日本電気計測器工業会 調査・統計委員会
- 開催日時：2021年12月17日(金) 13:30～16:35
- 開催形式：Cisco社 Cisco Webex Meetings (Web会議)

## 【「電気計測器の中期見通し2021～2025年度」の主な内容】

### 【掲載内容】

序

第1章 本書の使い方

第2章 中期見通しの概要

第3章 電気測定器（一般測定器）

第4章 P A計測制御機器

第5章 電力量計（計器）

第6章 環境計測器

第7章 放射線計測器

第8章 工業会自主統計

